

◆ 風しん患者がさらに増加!

1. 全数報告感染症の発生状況

一類感染症: 報告なし

二類感染症: **結核 3例** (肺結核1例, 結核性胸膜炎1例, 無症状病原体保有者1例)

三類感染症: 報告なし

四類感染症: **レジオネラ症 1例** (肺炎型, 60~64歳・男性)

五類感染症: **劇症型溶血性レンサ球菌症 1例** (血清群G群, 35~39歳・男性)

侵襲性肺炎球菌感染症 1例 (1~4歳・男性)

風しん 9例 (15~19歳:男性1例, 20~24歳:男性3例, 25~29歳:女性1例,

35~39歳:男性2例, 45~49歳:男性1例, 55~59歳:男性1例)

[診断日21週に1例 追加]

詳細は「風しんの発生状況」を参照

全数報告感染症の週別および累積報告数

滋賀県内の医療機関において、感染症法で定められている一~四類および五類感染症に該当する患者を診断した医師は、保健所に届出することになっています。これらの届出のあった報告症例を診断された週毎に集計しています。

なお、期日以降に届出があった場合は、再集計し、掲載しています。

主な疾病を対象に各週の報告数および累積報告数を下の表に示しています。

分類	疾病名	滋賀県				全国累計	平成24年累計※	
		20週	21週	22週	累計		県	全国
		5/13~	5/20~	5/26~	~6/2		~6/2	
二類	結核	6	2	3	114	10,236	254	28,951
三類	コレラ	0	0	0	0	1	0	3
	細菌性赤痢	0	0	0	0	52	0	241
	腸管出血性大腸菌感染症	1	0	0	4	367	37	3,765
	パラチフス	0	0	0	0	30	0	24
四類	E型肝炎	0	0	0	0	55	0	119
	A型肝炎	0	0	0	0	66	1	158
	オウム病	0	0	0	0	6	0	8
	つつが虫病	0	0	0	0	71	1	436
	デング熱	0	0	0	0	68	2	221
	マラリア	0	0	0	0	17	2	73
	レジオネラ症	0	0	1	3	282	10	898
	アメーバ赤痢	0	0	0	1	409	13	931
五類	ウイルス性肝炎	0	0	0	0	110	4	235
	急性脳炎	0	0	0	3	178	3	361
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	1	74	2	183
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	1	2	94	3	243
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	7	610	9	1,427
	ジアルジア症	0	0	0	0	30	1	72
	侵襲性インフルエンザ菌感染症***	1	1	0	2	23	—	—
	侵襲性肺炎球菌感染症***	0	0	1	3	312	—	—
	梅毒	0	0	0	1	447	1	891
	破傷風	0	0	0	0	133	0	117
	風しん	10	7	9	64	9,408	12	2,391
	麻しん	0	0	0	0	135	1	285

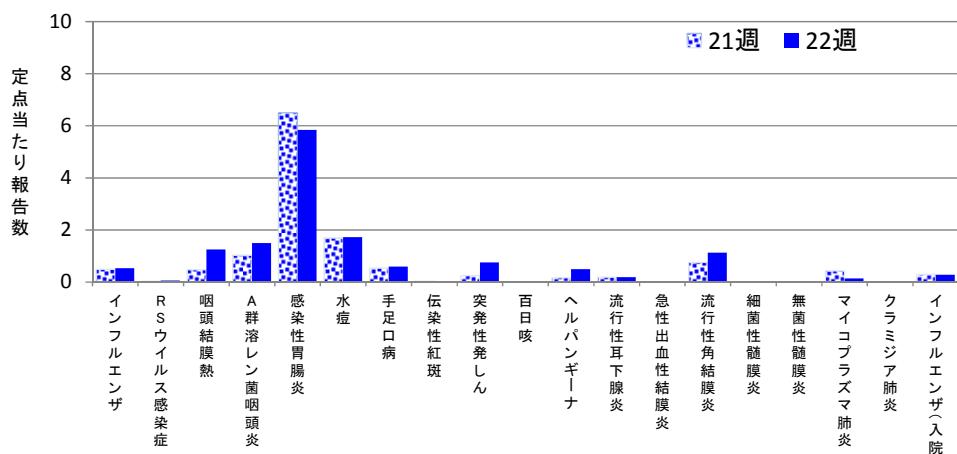
※ : 感染症発生動向調査事業年報暫定数 (国立感染症研究所感染症疫学センター 平成25年3月現在)

※※ : 平成25年4月1日から対象感染症として追加

2. 定点把握の対象となる五類感染症の発生状況

- 定点患者報告総数は、今週は435例（先週383）でした。
- 報告数の多い感染症は、感染性胃腸炎、水痘、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の順で、いずれも県内全域で届出がありました。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が増えています（定点当たり報告数1.50、先週1.03）。
- 咽頭結膜熱は高島保健所管内での報告が増加（定点当たり報告数12.50、先週3.00）しており、7週連続して警報レベルです。
- 流行性角結膜炎は、先週に引き続き増加しています（定点当たり報告数1.13、先週0.75、先々週0.50）。

定点把握の対象となる五類感染症の前週・今週の定点当たり報告数



警 報：咽頭結膜熱（警報開始基準値3 終息基準値1） 高島保健所管内（定点当たり報告数12.50）

注意報：水痘（注意報基準値4） 高島保健所管内（5.00）

定点把握の対象となる五類感染症の保健所管内別の定点当たり報告数

感染症発生動向調査事業において、滋賀県が指定した定点医療機関（指定届出機関）から報告される感染症を定点把握対象感染症と呼びます。週単位（月曜日から日曜日）で報告される感染症について、滋賀県および管轄保健所別定点当たり報告数を下の表に示しています（定点当たり報告数=報告数/定点医療機関数）。

定点区分 (定点数)	疾病名	滋賀県		保健所別(22週 5/27 ~ 6/2)						
		21週	22週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
小児科 (32)	インフルエンザ	0.49	0.53	1.18	0	0.14	0.88	0	0.14	2.00
	RSウイルス感染症	0.03	0.06	0	0.33	0	0	0	0	0
	咽頭結膜熱(ブル熱)	0.47	1.25	0.57	0.33	0.25	1.60	0.0	0.0	12.50
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.03	1.50	2.14	2.00	0.75	2.00	0.25	1.50	0.50
	感染性胃腸炎	6.50	5.84	3.29	5.33	4.00	7.60	6.50	11.00	4.00
	水痘	1.69	1.72	2.00	2.17	1.50	1.00	0.50	0.50	6.50
	手足口病	0.53	0.59	0.86	0.17	0	0.20	0.00	2.50	0.50
	伝染性紅斑(リンゴ病)	0.03	0	0	0	0	0	0	0	0
	突発性発しん	0.25	0.75	1.29	0.83	1.00	1.00	0	0.25	0
	百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼科 (8)	ヘルパンギーナ	0.16	0.50	1.14	0	0	0.20	0.25	0.50	2.00
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.19	0.19	0.71	0	0	0	0	0	0.50
基幹 (7)	急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	0.75	1.13	0	2.00	2.00	4.00	0	0	1.00
	細菌性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無菌性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	0.43	0.14	0	0	0	0	0	1.00	0
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ(入院)※	0	0.29	0	0	0	0	0	0	2.00

* 平成23年9月5日からインフルエンザ入院サーベイランスが開始されたことに伴い、基幹定点からの報告数(定点当たり報告数)を掲載

赤字： 警報レベルの基準値(開始基準値または終息基準値)を超過
紫字： 注意報レベルの基準値を超過

3. 風しんの発生状況

- 第22週は9例の報告があり、20歳代からの報告が増えています。
- 第1週からの累積報告数は64例となり、過去5年間で年間の累積報告数が最も多かった平成24年(12例)の5倍を超えていました。
- 年齢・性別の発生状況は、20歳代～40歳代が8割を占めており、性別では男性が8割を占めています。
- ワクチン接種歴については、接種歴が判明しているのは5例(2回接種1例、1回接種4例)で、ほとんどが、接種歴不明または無しです。
- 病型は、検査診断例が35例、臨床診断例が29例でした。
- 先天性風しん症候群は、滋賀県では報告がありません。(全国 累計5例)

図1 年次別累積報告数

(平成20年第1週～平成25年第22週、H19.12.31～H25.6.2)

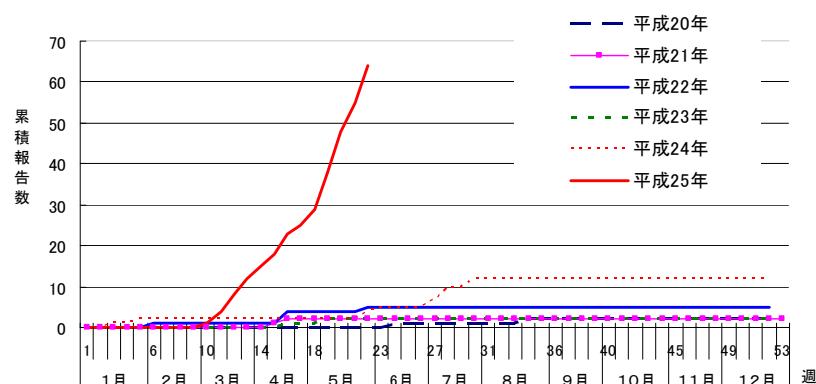


図2 年齢階級別の患者割合(滋賀県)

(平成25年第1週～第22週)

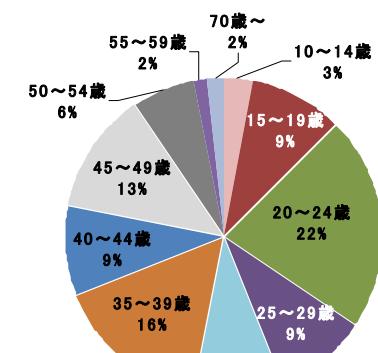


図3 週別・性別の報告数 (平成25年第1週～第21週、H24.12.31～H25.6.2)

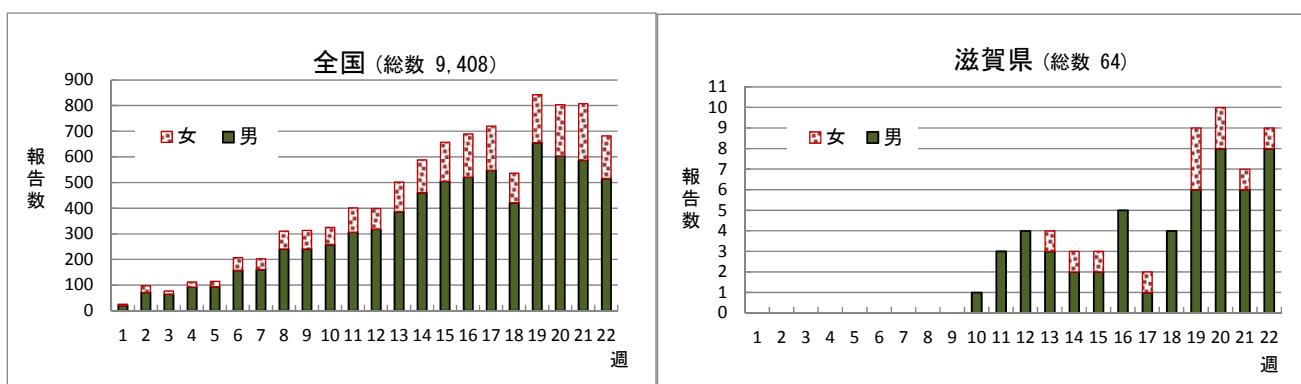
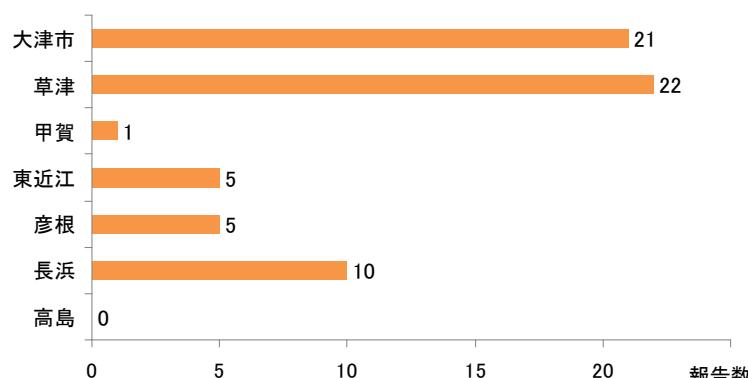
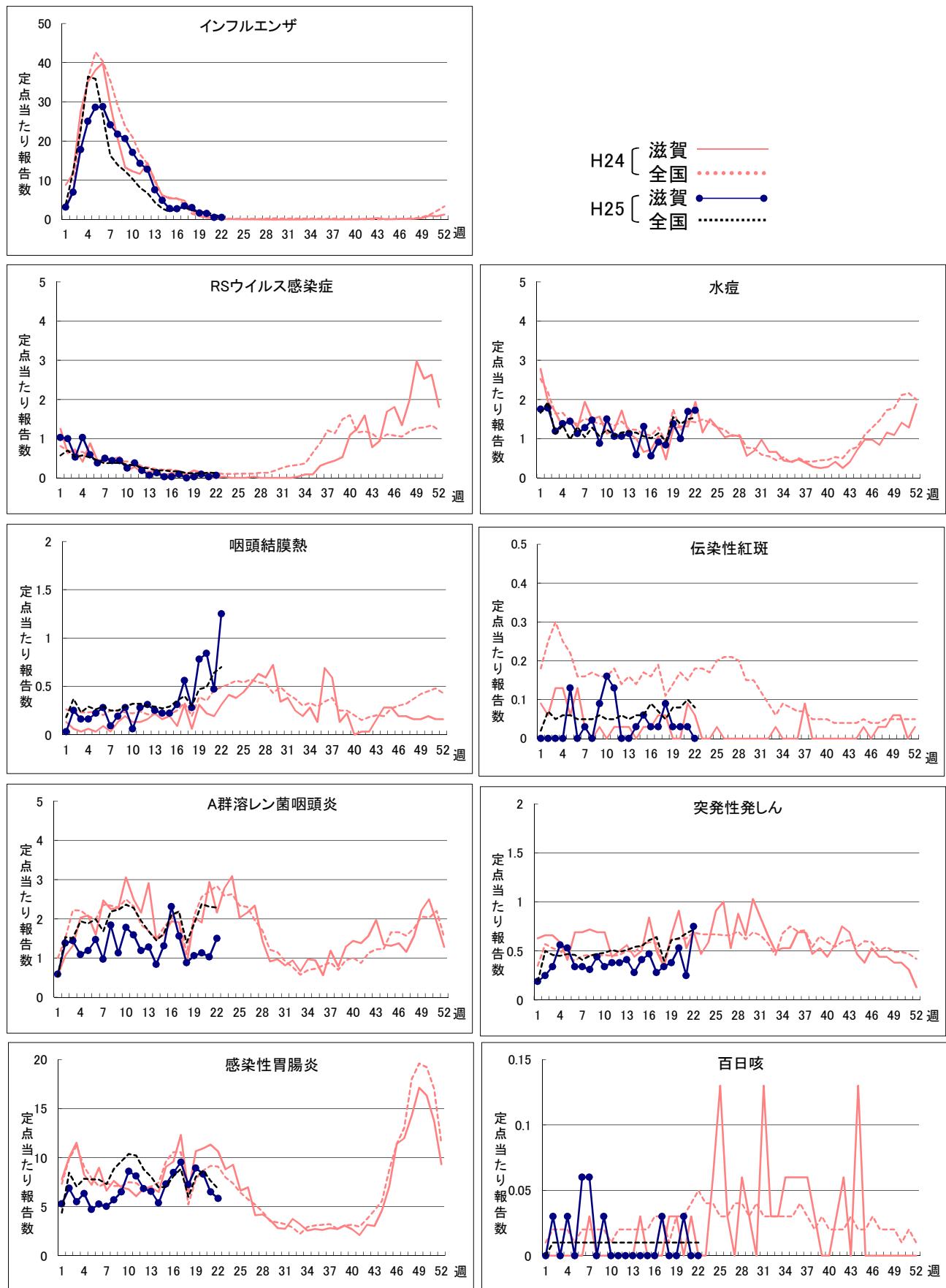


図4 保健所別の報告数 (平成25年第1週～第21週、H24.12.31～H25.6.2)



疾病別定点当たり報告数

(平成25年第22週、 H24.12.31～H25.6.2)



疾病別定点当たり報告数

(平成25年第22週、 H24.12.31～H25.6.2)

H24 [滋賀 全国] H25 [滋賀 全国]

